

今月の聖句

『見よ、兄弟が共に座っている。
なんとという恵み、なんとという喜び。』

(詩編 第133編 1節)

◎4月の予定 (4月1日現在)

5日(火) 教務委員会、教職員協議会

6日(水) 一学期始業礼拝

7日(木) 入学礼拝式(小・中)

8日(金) 給食開始(小2～中3)

時間割変更期間～11日

15日(金) 神私小半日研修会(オンライン)

18日(月) 給食開始(小1)

19日(火) 学力学習状況調査(小6・中3)

22日(金) イー스타ー礼拝、教務委員会

26日(火) 体力テスト

27日(水) 教職員健康診断

28日(木) 体力テスト予備日、教職員協議会

29日(金) 【昭和の日】

神奈川全私立中学相談会

神奈川県中学校陸上競技選手権

大会(三ツ沢競技場)～30日

◎5月の予定

10日(火) 春の遠足

12日(木) 耳鼻科検診

13日(金) 春の遠足予備日



平和をつくりだす人に

学園長 小川 正夫

思いやりのある優しい子に

副校長 佐藤 紀明

選択

事務長 佐藤 雅美

コロナ感染症の世界的な拡大で様々な自粛生活を送る中、東欧ではロシアのウクライナ侵攻で多くの都市が破壊され、一千万人近くの人達が避難しており、命を落とす人も多く、困難な生活を強いられており胸が痛みます。

多くの国々から支援の手が差し伸べられています。ウクライナの女性に支援団体の中の一ひとりが「今一番必要なものは何ですか」と聞いたところ、即座に「平和です」と答えていたのが、とても印象的でした。

祖国を守る為に支援を訴えるウクライナの大統領の誠実な姿勢にも心を打たれますが、太平洋戦争末期、日本各地の都市が壊滅的な被害を受け多くの民間人が命を落とし、若い特攻隊員の決死の出撃の様子を思い浮かべると、ウクライナの兵士が「自らの命を顧みず祖国の為に戦っている姿を見てその勇氣に感動した」と挨拶した国会議員とは異なり、私はもつとずっしりと重く辛い気持ちでした。

強大な力でウクライナを抑えこもうとするとき、ウクライナ側の司令官が、愛する人、愛する家族、愛する国を守る為に最後まで戦うと述べましたが、侵攻する側も防衛する側も、戦争は尊い命の奪い合いですので、仲直りする勇氣と智慧をもって欲しいと思います。そういう人になって欲しいと思います。

「どんな子どもに育って欲しいですか？」ある保護者アンケート実施の結果、半数以上の割合で『思いやりのある子』が一位でした。

『思いやり』とは、相手の立場に立って考え相手の気持ちを大事にして行動することです。他人の行動に共感して、損得なく相手を助けてあげる行動でもあります。この『思いやり』は日常的に受ける愛情や、自分を囲む全ての人から感じる愛情から生まれるものです。

『思いやり』は、十分な愛情ややさしさの中で育つことが大切であり、心が安定していれば、自分自身だけでなく、周囲の人にも目が行き届き、人に優しくすることができるようになります。

学校は、集団の一人としての自分の立場や役割を自覚して、あらゆる人間関係の中で自主的に活動できる場です。仲間と様々な体験を共有しながら深い繋がりを築いていきます。異学年との活動を通して相手を思いやる心と温かい人間関係も築いていくことができます。学校生活の中で自分の気持ちに共感、尊重してもらった経験や、自分は愛される大事な存在であると実感することが人を思いやる心に繋がります。一番身近な私達が『思いやり』のある接し方をして優しい心が育まれます。『優しい心を育む 聖ステパノ学園』言葉通りの学校になるよう力を尽くします。

ここ2年間は、コロナ禍で行事、仕事の在り方が変わるなど生き方を見つめる機会になりました。

特に、社会や環境について正直自分の無力さに絶望することもありました。温暖化や集中豪雨の増加など地球の環境問題も身近になり、これからどう生きていくか、現在よりも悪くならないためにできることは何かを考えるタイミングにもなりました。

どう生きるかと環境に問われているように感じ、人として、私として何を選択するかは自分自身にしかわからないことです。選択し続けることによって自分が描く自分に近づいていくような気がします。子どもたちはこれから最初の選ぶという時期がきて、とっても勇氣がいるということから、力も必要になります。でも、そこで選ぶことができると、選んだ自分自身に必ず自信がついてくると思います。

自分の中にある正しい位置で生きられること、心地の良い自分でいることで、自分に良い空気が流れ始めれば、誰かにとっても心地の良いことだと思えます。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。



小さなことでも気持ちを伝える

小学校教務副主任 赤田 祐章

練習もせず、ずっと言わないで生活をしていると、言えなくなってしまう言葉がありません。何か想像がつかますか？

日本では、以心伝心という言葉があります。心の内で思っていることを、声に出さなくても互いに理解しあえることが良いとされていますが、これは誰かに何かをサポートする立場にある人の心構えです。言葉に出さなくても気持ちは伝わっている、申し訳ないと思うなんて当たり前だなど、自分に都合よく考えられて良いということでは、決してありません。

確かに人は独りでは生きていけません。でも、困っているとき誰かが手伝ってくれるのは当たり前でしょうか。誰かに迷惑をかけてしまうのは当たり前でしょうか。いいえ違います。感謝を込めて「ありがとう」、自分のミスに気づき「ごめんなさい」が言える。これこそが当たり前です。練習もせず、タイムリングを逃して言わないと言えなくなってしまうのがこの言葉です。「ありがとう」と「ごめんなさい」には軽いものから重たいものまでレベルがあります。まずは軽いものから、日々の生活の中で声に出して言う練習と、すぐ反応して言う練習をすることが大切です。

「ありがとう」と「ごめんなさい」が言える、素敵な人に育って欲しいと願っています。

生き抜く力

教諭 飯田 裕美

コロナ禍で、家庭科の授業の中でも調理実習がほとんどできずに終わってしまいました。私は調理実習が大好きで、作って楽しい、食べて楽しいは勿論ですが、子ども達が懸命に取り組み、協力し合う様子を見るのが大好きなのです。何かを達成する時には、自分の力だけで頑張ることも大切ですが、人の力が必要な時もあり、協力し合うことで他者がいて自分がいることに気付くことや、相手を思いやる気持ち、共に達成する喜びを、そしてこの世の中を「生き抜く」力が身に付けられるよう限りある中でも一年を通して伝えることができた良いなと思っております。

また、悩んでいることや自分の中で抱えていることを自分の中で納めるのではなく、誰かに相談する勇気をもってほしいと思っています。大人もそうです。お腹の中に抱えていると気持ち悪い方に向かいやすく、心は勿論、体にも影響が出やすくなります。ですが、人に話を聞いてもらうことでスッキリすること、そして自分の中の思いがまとまっている現実に向かうステップへと進むことがあります。そのために私は、心の門を開き、気軽に相談をしてもらえような、また信頼できる人になりたいと思っております。

挨拶と抱負と大切にしていること

教諭 石川 瑠一

皆さん、はじめまして。今年度から聖ステパノ学園の国語を担当させていただきます(石川瑠一)と申します。生まれも育ちも神奈川県で、海の見える環境で育つてきた、ほやほやの二十二歳です。

そんな私ですが、教員になるにあたってこの軸だけは守っていきたくと考えていることがあります。それは「生徒のみんなに人の立場に立って考えることが出来る人になって欲しい」というものです。通信手段の発達に加え、コロナ禍で人との繋がりが希薄になりつつあると感じています。マスクも相まって従来のような顔と顔を合わせてのコミュニケーションが取りづらくなってしまっています。そんな中で他人と協力していく為にはどうしたらいいでしょう。私はそこで大切なのが相手のことを想うことだと思っています。SNS越しの相手の顔を思い浮かべる、画面越しの相手を深く思いやる。今まで以上に相手を想う優しさが必要になる社会が待っています。

私はこの学園で生徒の皆さんと一緒に「優しさ」を成長させていきたいと考えています。多くの人と関わりながら思い出になる中学校三年間にしましょう。よろしくお願ひします。

愛され喜ばれる人に

教諭 伊藤 有紀

やってみなはれ

教諭 金阿彌 勉

ステパノ的「生きる力」

小学校教務主任 上戸 基夫

今年度から、聖ステパノ学園小学校の教員となりました。この学園の同じ一年生として、一年生と共に楽しく学んでいこうと思います。私が教育者として生きていこうと決めたのは、ある時ふと感じた自分の使命からでした。「幸福の波紋の中心となるはじまりの人」となること。人の優しさというものは、水面に水滴が落ち、その衝動が水紋となって周りへと広がっていくように、人から人へと伝わっていくものだと思います。受けた人は与える人となり、またそれを受けた人が、与える人となる。優しさを受け、自分も他者へ愛を与えたいと思う人がどんどん増えていきます。その始まり、幸福の波紋の中心となる使命を与えられた私は、『自分一人でせつせと人を愛するよりも、人を愛する人間を育てた方が効率がいい!』と思ったのです。自ら人を愛し、喜ばせたいと思う人は、人からも愛され、喜ばれます。「どこへ行っても可愛がられる人だね」と言われるたびに、愛されるような人間に育ててくれた両親と教育に感謝します。

今年度も小学校図画工作科、中学校美術科・技術科を担当として自然豊かな素晴らしい環境を最大限に生かしつつ、DX化にも教科特性を反映させて参ります。そのために大事なことは、授業を通し児童・生徒の「造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成する」(中学校美術科学習指導要領より抜粋)ということです。中でも図画工作・美術における「知識・技能」は、単なる知識ではなく、自分が経験してきたことの引き出しから何を取り出し、どう活用するかという能力を高めることです。こうすればこうなるというようなレールを敷くのではなく、サントリーの創業者鳥井信治郎氏の名言「やってみなはれ」のように、まづやってみて考え工夫・改善し、自分の表したいことにどれだけ近づけられたかが実感できるよう、活動を通して見取り支援すること、それにふさわしい場(材料・用具などを主体的に活用できる場)を設定することを、引き続き工夫して参ります。

卒業生が、こんな事を私に教えてくれました。「先生、ステパノを卒業した子ども達には、本当の意味で『生きる楽しさ』を教えてあげてください。それって気が付かないうちに体に身につくと思うんです。意識しないうちに。だから、小学生の特に低学年の時に『生きる楽しさ』を教えてください。それを知っている人は、ステパノを出てからきつと頑張れる。『生きる力』は自分が何か困難に陥ったとき、踏ん張れる力になりますから・・・」。小学校での学びと生活は、大人になった時にその人に大きな影響を及ぼします。ステパノから離れた時にこそ、学校で過ごした九年間の成果が試される時です。この卒業生の言葉は、今まで自分が担任した子ども達に身につけて欲しい力とまさに同じものでした。

ステパノは他の学校から比べると小さな学校です。だからこそ、九年間で築き上げる児童生徒同士、そして教員との絆が深くなります。これはステパノの良さであり、強さでもあります。それに加え、学園を卒業していくまでに、ステパノ的「生きる力」を身につけ、自分の力で歩んでいく事ができる「ステパノっ子」を育むことができるよう、全力で子ども達に向き合っていきたいと思えます。

相手を受け止められる人に

教諭 栗原 詩津子

三月末日、二度目の抱負の原稿を書く時期がやってきました。数年前まで育てられる側であったし、今でも教員として育てられる身ではあるのですが、去年一年、どこを目指して授業をしていたか位は話すことができるでしょう。教員になるとき恩師に言われたことがあります。

「先生にされて嬉しかったことをあなたの生徒に返してね」という言葉です。これだけは肝に銘じて来ました。その一番は授業内で発言しやすくすることです。

発言がしやすい授業とは相手のことを何があっても安心して受け止めてくれると信じられる場です。

私は、そのような場で、様々な失敗をさせてもらったし、様々な意見を交わさせてもらいました。そうして育ってきたので、同じことを生徒に返したいと思っています。

私は生徒にそのような環境の中で、相手を受け止められるように育ってほしいです。

それは身近なところでクラスの友達を、先生を、将来の職場の人を、そしていずれは世界の人や文化を受け入れることにつながっていくはずで、これは社会科で、世界のことを学ぶ上で大切なことです。そうして世界で起きるさまざまな出来事を受け止めて、考えられるように育ってほしいと願っています。

私はこういう人に育てたい

庶務 小出 初美

新入学、進級おめでとうございます。今年もよろしく願います。

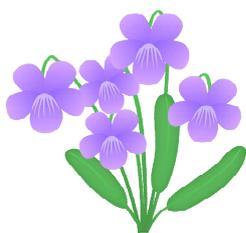
聖ステパノ学園に来て早いもので四年目になりました。まだまだ、新型コロナウイルスの影響で様々な規制があり、大変な状況は変わらず続く一方ですが、この苦難を教職員、子ども達と共に乗り越えていきたいと思えます。

いつも、元気いっぱいな子ども達に自分ができる事は何かを考えてみました。

自分らしさを探したり考えたりして、個性のある子、子どもがやりたいことに協力したり一緒に取り組む事。

私自身、思いやりが大切と言われて育ち、それが人間関係においていかに大切か実感しているの、私が思いやりのある行動をとる事です。

今年も、子ども達のお手本になれるようにがんばっていきます。



こういう人に育てたい

教諭 根田 栄子

聖ステパノ学園は宝の山のような学校だと思っています。色も形も様々な、キラキラした宝物があちこちに埋まっています。あらゆる宝物があるのですが、その中でも一番大きな物が『神様』『先生方』そして何と言っても『お友達』です。毎日一つでもいい。小さくてもいい。宝物を見つけ、ランドセル（通学カバン）に入れて持ち帰り、身に付けて欲しいと思います。

一日でたくさんさんの宝物を発見できる日もあるでしょう。反対に何も見つけられない日が続くこともあるでしょう。でも、すぐに諦めてはいけません。宝物はステパノ中、あちこちに埋まっています。よく目を凝らし、見つけてください。土が硬くて掘れない所もあるかもしれません。でも諦めてはいけません。待つことも大切です。雨が降ったり、風が吹いたりして土が柔らかくなるかもしれません。一緒に掘ってくれるお友だちが現れるかもしれません。その下にはきっと大きな大きな宝物が眠っています。

聖ステパノ学園の宝物は、どんなにたくさん身に付けても、くどくなったり見苦しくなることはない、神様の賜物です。一つでも多くの宝物を身に付け、キラキラの幸せな笑顔で卒業して欲しい…と思っています。

主の栄光を現わす人に

中学校教務副主任 咲間 直人

子ども達に願うことは、神様が私達を愛してくださっていることを受け入れ、自らをゆだねられるようになってほしいということだと思います。そして、小さなことにも感謝と喜びの気持ちを持ち、知識と知恵を自分本位に用いず、何が神様に喜ばれるのかを吟味して行動する人に育ってほしいと願っています。

神様に愛されているということ伝えるのであれば、まず私達が身をもってその愛を子ども達との触れ合いの中で真つ直ぐに示す必要があると思います。誰かに愛されているという感覚は自己肯定感を高めることに繋がります。一方で失敗が続いてしまうと自己肯定感は低くなりがちです。ただ、失敗の体験も必要なものだと思います。失敗があるからこそ、手を差し伸べてくれる人、支えてくれる人の存在に気づき、感謝することができずし、それをきっかけに、次は何かの形で他者を支える人になってくれる可能性もあるからです。大事なものは、子ども達が失敗したと思つた時に、そこから学ぶ機会を与えることと、寄り添い、立ち上がるための支えを充分に行うことだと思えます。

聖書科として、み言葉を伝えることを第一にしつつ、私自身も神様が望まれることは何かを考えて自己を顧み、驕ることなく自分を律して日々過ごして参ります。

「ハングリーであれ。愚か者であれ」

教諭 櫻田 千亜紀

これは米アップル社の創業者の言葉です。たとえ周りから見て愚かでも、常識から外れたことであっても、自分の好きなことや信念を曲げずに行動する、というものです。

私が育てたい人間像も、物質的にだけでなく、精神的に充実した人生を築く人間です。聖書にも「人はパンのみにて生きるものに非ず。」とあります。マザー・テレサも「この世の最大の不幸は、貧しさや病ではありません。誰からも自分が必要とされていないと感じることです。」と精神の重要性を訴えています。

さて、文部科学省の2020年度の調査では、子どものいじめ認知件数は減少、不登校は増加としています。私も学生時代、いじめに悩みました。しかし、家族や友達、尊敬する人、先生との関わりや読書や音楽、旅、ゲームなどの趣味や食事の力から今へと至ります。「感情なんてなくなれば良いのに」と思いましたが、感情は有害ではなく有用なものだと氷解しました。さて皆さんは、「バタフライ効果」はご存知でしょうか。不思議なことに蝶が羽ばたくと竜巻を引き起こす原因になるといわれています。非常に小さな出来事が、最終的に予想もしていなかったような大きな出来事につながります。皆さん、ひとり一人の羽ばたきや思いが不可欠です。一緒により良い学園にしていきましょう。

私はこういう人に育てたい

非常勤講師 笹尾 和子

新入学、進級おめでとうございます。

- ・やってみよう！自己実現と成長
- ・ありがとう！つながりと感謝
- ・ありのままに！独立と自分らしさ
- ・なんとかなる！前むきと楽観

この4つの事は色々な場面で紹介されている記事なので、もう知っている方もいらっしゃると思います。私はこれらの気持ちをバランスよく自分で切り替えながら生活できる人に育てたいと思っています。「育てたい」と書くのと既に自分はそのようにできている状態と思われそうですが、まだ私も目標にしています。

3月コンサートで聴いた作品、中田喜直作曲・渡辺達生作詞の「歌をください」が深く心に残りましたので一部分を紹介します。

(YouTubeで視聴できます)

私に歌をください 希望の歌を

平和の歌を 実りの歌を

一度しかない人生 一つしかない生命
大切に育てたい 愛の歌うたいながら

皆さま、今年度もよろしくお願いいたします。

冬の厳しい寒さを乗り越えた動植物が、春風の香りに誘われて活き活きと活動を始める季節となりました。すべてが初めてだった昨年度、眼前に立ちはだかる壁を乗り越える勇氣を与えてくれたのは、紛れもなく子ども達の希望に満ちた輝く瞳、平安を齎す言葉、そして平和を創り出し、神の国を彷彿とさせる優しい心でした。今年もそんな光の子の傍らにいられることが嬉しく、ありがたく、感謝と期待でいっぱいです。

吹奏楽部にいた中高生時代、「音楽は技術を競うのでなく、神にお返しする賛美だから、出来栄えは関係ない。心のメトロノームを揃えれば、必ず賛美になる」とよく指導されていました。人の成長にも共通点があるのでは、と感じます。「喜ぶ者と共に喜び、泣く者と共に泣きなさい。」という御言葉のように、お互いを神に愛される尊い存在として認めつつ、それぞれが心を動かし合って過ごす―それがきつと賛美であり、成長の糧なのです。心のメトロノームの持ち味、即ち個性は多様です。しかし生活の中で共に喜び、涙し、驚き、怒り：そして祈りによって一致します。私自身もまずこれを行い、この世の被造物や神様の愛の深さへの感動を子どもと分かち合っ、この地上に麗しい神の国が築かれる人となれますよう、邁進いたします。

学園の桜が咲き始めると、新しい一年が始まることを感じます。

ついこの間、小学校6年生の主担任として、5年間関わってきた6年生の卒業を見届けました。2年生の時から見てきた子どもたちは、5年間で体も心も大きく成長したことを感じます。

卒業式の日、ある保護者の方とこんなやり取りをしました。「子どもたちも中学校生活に向けてドキドキしていますが、澤邊先生も4月からは緊張しますよね。」

実は、この聖ステパノ学園に奉職してから、5年間、ずっと同じクラスを担任していました。そのため、この春からは新中学生になる子どもたちと同様、新しい生活が始まるような気持ちです。

4月からは2年生のクラスで担任を務めます。元氣いっぱいこの2年生、これから出合う沢山のワクワクやドキドキが待っていることでしょう。

私が初めて担任したのも丁度2年生でした。この5年間、ステパノで学び体験したことを振り返りつつ、希望に満ち溢れた子どもたちとの新生活をしっかりと送っていこうと思えます。よろしくお願い致します。

私事ですが、昨年娘が誕生しました。娘にどのような人に育ってほしいか考えると、私が普段から聖ステパノ学園の子ども達に抱いている思いと同じであると気が付きました。

思いやりのある人、自立した人、人の痛みがわかる人、ありがとうとごめんなさいが言える人：。たくさんの希望を抱いていますが、特に、生きる力を持った人に育ってほしいと強く思います。

生きる力という言葉は、一九九六年に現在の文部科学省である文部省の中央教育審議会を示されました。私は大学時代に初めてこの言葉を知り、深く共感しました。

社会はめまぐるしく変化していて、子ども達が大人になる頃には、今は想像できないような社会になっているかもしれない。どのような状況でも、自らの生きる力で、それぞれの幸せを実現してほしいと思います。

心と体の健康は生きる力の中でも、なくてはならないものだと思います。私は養護教諭として、子ども達がたくましく生きるための健康や体力の面をサポートするとともに、心の健康についてもいっそう力を入れたいです。そして保健教育や子ども達との関わりの中で、私の言動もすべて子ども達に影響する可能性があることを意識して、豊かな心が育つ関わりをしていきたいです。

祈り

総務 新庄 主来

私は、学園の子ども達が、神(イエス様)を愛し、お友達を大切にし、すべての人と平和を保つ人に成長して欲しいと願っています。

聖書の中に、「あなたの若き日に、あなたの創造者を覚えよ。」というみことばがあります。幸いな事に、学園では毎朝礼拝がもたれ、一日の生活がそこから始まります。「神を愛せよ。」といくら口で言われても神様がどういふ方なのか分からなければ愛することは出来ません。聖書を開くと、神様がどれ程私たち人間を愛してくださっているかが分かります。また、人は何のために生まれ、何の為に生きているのか。その答えが分からなければ、「どうでもいいや。」という人生を選んでしまいがちです。しかし、創造者を覚えることにより、自ずとその答えが見えてくると思います。そして、本当の神様の愛を知った時、自分の命の尊さを悟り、同じように神様に愛されているお友達一人一人の命の大切さにも気づくはずでです。また、聖書は「平和をつくる者は幸いです。その人は神の子どもと呼ばれるからです。」と語ります。平和は自然に湧いてくるものではなく、互いに愛し合う中に生まれてくるのです。

学園の子ども達が、光の子どもとして歩まれることを心から願ひ祈ります。

私はこういう人に育てたい

教諭 高橋 謙二

今年度は小学5年生の担任を受けもたせて頂きます。どうぞ宜しくお願い致します。

聖ステパノ学園は、神様に守られ、すべてのことは神様の導きによって成されているもので、自分に起こっていることは、偶然に起きたことではありません。

人は完全ではないので、間違えたり失敗したりすることは誰にでもあります。その時に自分自身を正直に見つめられる人になってほしい。そして優しい言葉だけでなく、厳しい言葉に対しても、謙虚に受け止め、他人のせいにならないで、自分自身を見つめ変えられる素直さと勇氣をもてる人を育てたい。また自己愛だけでなく、人を思いやり、人を助けられる人にもなってほしい。そして、一番の願ひは、経験や知識が身についた大人になつてからも自分自身の行いを素直に受け止め、間違いは認め、人としての成長を日々願う人になつてほしい。『言うは易く、行ふは難し』という言葉があるように、ここに記すことも、子どもたちや保護者の方に語ることも簡単なことですが、子どもたちは、私たちをよく見えています。私たち教職員(自分自身)は言葉だけでなく行動に移さなければなりません。今年度は自分自身の言葉に誠実に、子どもたちに向き合い共に過ごしていきたいと思っております。

新年度の抱負

中学校教頭 田中 圭史

本学園の目指す教育の一つに、レジリエンスが挙げられています。困難な状況にもしなやかに対応する力、心の回復をはぐくむ力、ということです。

学習や生活、対人関係などの面で苦手なことに向き合うのは勇氣が必要です。得意なことを見つけて取り組んでいくことと共に、苦手なことにもどう向き合うか、考えて行動する力を養っていききたいと思ひます。取り組めば、すぐ結果が出るものばかりではありません。結果が出るまで継続する力が必要です。小さな目標を一つずつ立てて、前進していくことができるように願ひています。これらは誰かが代わりにしては身につけていきません。彼らが自分自身で経験を通して学んでいくことが自信につながり、大きな力になります。

より良い自分を目指して、またどんな自分になりたいかをイメージできるように、子どもたちを理解しながらかわっていききたいと思ひます。

微力ではありますが、励んでまいります。今年もよろしくお願ひします。



「セルフ・ドリブン・パーソン」

教諭 露崎 志苑

自分が「したいこと、熱中できること」が見つかる毎日が生き生きとし始めます。一方で「しなければならぬこと」だけに埋もれて生活しているとどこか息苦しいものです。私自身、「したいこと」がなく、生き生きとしない日々を過ごしていた時期があります。

さて、英語には self-driven (セルフ・ドリブン) という言葉があります。person (パーソン：人) とつながると「自分自身から湧く興味や熱意に駆り立てられ、何かに取り組む人」といった意味合いになります。自分の中に動力源 (エンジン) がある人のことです。

「好きだからそれをする」、「やりたいから取り組む」。そのようなものを見つけ、self-driven person となれたならば、本当に素晴らしいことだと思います。こころの内から湧き出てくる「したいこと」をぜひ早いうちに見つけてください。もう見つけている人はそれを大切に育て、そうでない人は日々の生活の中で探し出そうとしてみてください。

皆さん一人ひとりがそのような self-driven な人になれるよう学校生活の中でお手伝いできれば、私はとても嬉しいです。

この4月に着任しました中学英語科の露崎志苑 (つゆざきしおん) と申します。これからどうぞよろしくお願いいたします。

幸せでいられる人になろう

養護教諭 土橋 久美子

「人は必ずしも幸せである必要はないのかもしれない」

今年に入って聞いた言葉のひとつです。人を取り巻く環境 (家族や仕事を持つ・持たない・どんな風に持つのかなど) の話をしていく時でした。置かれている環境が必ずしも幸せなことばかりとは限りませんが、その中でもより良い環境にすべく、自分を変えたり環境に手を加えたりすることが当然だと思っていたので驚きました。作品を作る人たちの集まりでの会話だったので、ネガティブな出来事や心情の方がいい作品に仕上がりがいい、という事情もあったかもしれません。ですが、私自身は同調できませんでした。

一人になって、私自身はどんな気持ちで生活したいか、そして子どもたちには生活していつて欲しいかをよく考えてみました。そして、「環境すべてに満足がいかなかったとしても、なんとなく楽しい」という生活がいいな、と思いました。それには、自分の成長を喜んで、受けた優しさに気がついたり、誰かと楽しい気持ちを持ちあわせる経験が活きるようです。子どもたちがその子なりの幸せを探せるように、また、幸せであることを否定しないでほしいように、そんな経験を一緒にしていきたいです。

私はこういう人に育てたい

守衛・校務 飛田 裕二

人を育てることは難しいと考えます。自分の経験上の話しですが、人に何かを教えるのは、相手側は、どれだけ自分の話を理解できているかが、ポイントだと思います。

人それぞれ考え方が違うし、自分と同じの考え方は少ないと思うし違って当然だと思います。若い頃だったら、怒りの感情がでて、怒鳴るなんてこともありましたが、年齢を重ねるごとに怒ることより、どうしたら相手に伝わるかを考えるようになりました。子供と接する様になってからは怒る感情が非常に少なくなりました。どうしてかは素直だからです。今までは、大人の都合だとか何か分からない理由で曖昧な対応が多く、上が白と言ったら黒でも白になることが沢山ありました。

子供たちは、どうして? なんで? など分らないことは質問してきますし、中学生になると人生のこととか自分の経験上を踏まえて話しをしますが、多分理解できないことの方が多いいと思います。思春期のときには分からなくて当然これから嫌でも辛い経験をやるのだから、人に傷つけられ、裏切られ、時に涙を流して苦しくなるでしょう。だけど、その度毎に心が強くなる、人生やり直しは生きている限り何度でも生まれ変わるし、立ち上がる勇気を身につけられる人を育てたいと思っています。

優しい心

教諭 難波 寛

今年度のステパノだよりのテーマ、「生徒にどのような人に育ってもらいたいのか」について、私が考えたことを書きたいと思います。

昨今は、人と人との繋がりについて改めて考えさせられることが多いです。例えば、中学校では感染症対策でそれまでよりも人と人との距離をとって活動を行っています。今まではお互いに触れ合って楽しかったゲームなどは制限されています。では、この人との関り方・接し方が変化していかなければならない状況では、どういったことを大切に考えていったらよいのでしょうか。

私の教員生活もこのステパノでお世話になって丸十年が経とうとしています。改めて考えてみると、当時も今もステパノの児童・生徒の皆さんの印象は変わりません。それはステパノの子はとても優しい子が多いという事です。その優しさに私自身何度も助けられ励まされました。私はステパノでも大切な事を学ばせてもらいました。優しい言動は人を助ける事になり、時にはその人を救う事にもなるという事です。それは社会がいかに変化しても変わらない事だと思えます。私は、今後もステパノの児童・生徒の皆さんにはその優しさを持ち続けたいと思います。そして、教員としてそれを伝えていきたいと思っています。

「私はこういう人に育てたい」

教諭 西村 哲臣

新しい年度になりました。ご入学と進級おめでとうございます。神様からのお導きとたくさんの方々とのつながりの中で、今年度から聖ステパノ学園にて奉職させていただくことになりました西村です。「明るく元気に」をモットーに多くのことを子どもたちから学んでいきます。「主を待ち望むものは新たな力を得る」(イザヤ書40・31)コロナ禍の中、生活や学びのスタイルも大きく変化しました。初めてのことに戸惑うことも多くありました。私たちはその中でも共に学び成長し自らの糧を増やしてきました。私自身も「頑張つて前向きに進んでいけば何とかなる。叶えることができる。」という事に気付いた最近です。これから始まる新しい年度も子どもたちと共に成長していく一年間にしていきたいです。「教育」と言わず「共育」です。海も好きです。加齢とともに鈍くなりましたが体を動かすことも好きです。食べることも大好きです。学園には多くの緑があります。自然が豊かで伝統のある大磯で始まるこの一年も神様に見守られながら大切に過ごしていきたいです。至らないところもたくさんあります。どうか温かい目で皆様からのご指導を頂きたいです。よろしくお願いいたします。

自信と勇氣

中学校教務主任 二椏木 健太

時が経つのは早く、私が聖ステパノ学園に着任し、あつという間に11年目を迎えました。有り難いことに今までたくさんの子どもたちと関わり、新たな世界へと送り出してきました。学園での生活は小学1年生から在籍している子は9年間、中学校だけなら3年間と卒業した後の人生のことを考えると短い時間です。ですが、生きていくうえで大事なことを身に付けていく、大切な9年間です。その9年間のステパノでの学びを活かして、これから進んでいく大きな世界で、どんな逆境に立たされても、強く、一歩ずつ自分の力で前に進んでいけるそんな人に育てていきたいです。そのためには、行事や日々の生活の中で一人ひとりに役割があり、その中で小さい事でも達成感や充実感を味わい、自信に繋がっていくことができるのがステパノです。

さらに、自信を積み重ねていくためにはチャレンジしなければ何も生まれません。時には失敗してしまうこともあります。「失敗は成功の基」という言葉もあるように失敗から得ることも多くあります。失敗を恐れずチャレンジする勇氣を持っていって欲しいです。ステパノでの9年間で自信と勇氣、この2つを持ち、大きな世界へと巣立っていける人に育てていきたいです。

「育てる」という行為は、大きな労力が必要です。自分の知識や経験を教え、それを共有する。すべてを伝えることは難しく、また長い時間を費やす必要があります。

私は学校、個人で、音楽を演奏し、教えることを仕事としています。個人の生徒としては、下は四歳から、上は八十代の方まで、実に幅広い年代の生徒たちと関わっています。皆それぞれ、同じように指導してきましたつもりでも、音楽表現の仕方や取り組み方に違いが出てくることを、当たり前ながらも興味深く感じます。

音楽を歌ったり、演奏したりすることに関して、正直に申し上げれば、リズムや強弱、作曲家からの指示など、明確に意図された箇所を除けば、自由に演奏しても良いと考えています。もちろん、曲の本質から大きく外れなければの話ですが、そこに個人の個性が生まれると考えています。そのため、音楽に限らないあらゆる経験を伝え、多彩な自己表現のできるよう、指導していきたいと考えています。

現在、コロナ禍につき、楽器の演奏や歌唱が非常に難しい状況になっています。その中でも手を尽くし、豊かな自己表現の課を持った人に育ててゆけるよう、尽力致します。

暖かな春の陽気に学園の桜も一気に満開となりました。今年度はとてもきれいな花を咲かせ、私たちの目を和ませてくれました。

入学、始業を迎える前でしたので、子どもたちと一緒に楽しむことができなかつたのはとても残念でした。新しい児童生徒が入学し、在校生もそれぞれ進級をして、希望に満ちた新学期のスタートとなりました。

子ども達の成長にはそれぞれ違いがありますが、どの子にも「隣人を自分のように愛しなさい」という聖書の言葉にあるように、周りの人を思いやり、助けが必要な時は手を差し伸べられる人に育ってほしいと思います。成長段階から見ても、小さいうちは自分中心に物事を考えることが多いと思いますが、成長するに従い、他者への想像力を働かせることができるようになっていきます。想像力を働かせることができるようになるには、様々な人と関わり、活動を共にし、自分とは違う考えや思いを知ることが必要です。学校生活はそのような場であります。困っている子がいると、「大丈夫？」と声を掛けたり、駆け寄りたりするステパノっ子。周りの人たちに愛のある言動がとれる人に育てていきたいと思えます。今年度もどうぞよろしくお願ひします。

新年度になりましたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。私は、昨年度副担任として二年生を担当させて頂き、ご一緒した草山先生にも、子どもたちにも、保護者の皆様にも感謝の気持ちでいっぱいのまま、昨年度を終えることができました。今は新しい気持ちで、希望をもって新年度を迎えています。

私は教員として、昨年度も今年度も、初めて担任をした十五年程前からずっと、「人に優しくできる人を育てたい」という思いを持っています。自分で書いておきながら何ですが、抽象的ですよね。漢字が出来るとか、計算が出来る人等と比べると、ずっと分かりにくいのです。ましてその為に教師としてどうすればよいのかは、なかなか答えが出にくいのです。いくら声をかけたところで、すぐに人に優しくできる人にはなれません。

では、どうすればよいか。まだ結論は出せていませんが、一つ心がけていることは、教師として自分が子どもたちに優しくすることです。正直いつでも出来るわけではありませんが、自分が優しくすれば、やがて子どもたちも人に優しくできるようになると思っています。

よい一年間にしたいと思っておりますので、本年度も何卒よろしくお願ひします。

考えてみよう

学校図書館司書 平野 朋子

ご入学、ご進級おめでとうございます。

学校や日常生活の中で、知ることや体験することにより、素敵だな、変だな、不思議だな、と感じること、そしてなぜそう感じたのか考えること、その考えを自分の言葉にして伝えることが大切だと私は思っています。

私達は毎日、テレビやネットのニュースで色々な意見に触れています。その中で、自分にとって都合のいい意見だけを心に留めるのではなく、自分とは違う見方や意見があることを知り、なぜだろうと考えること、世の中の常識にとらわれず、自分なりの答えを見つけるために自ら考える力をつけることは、心の成長のためにも必要だと考えます。

私達はみんな、異なるところがあります。みんなと共に生きていくためには、その違いを意識して、考えることを諦めないことです。ステパノの学校図書館には、読みながらじっくり考えることができるような本がたくさんあります。考えながら読むことができれば、読みながら自分の考えをつくることができます。是非、図書館で本を見つけて下さい。



心豊かな人に

庶務 松崎 由香

この時期になると、学校の桜も綺麗に咲き、眺めていると心が軽やかになります。自然と笑顔になります。また新しい出会いも楽しみです。

私は、小学校の職員室で事務の仕事をしています。直接子供たちに何か教えるという機会はとても少ないですが、挨拶したり、すれ違う時に少しお話ししたりすることもあります。学校には様々な方が訪れます。来校して最初に立ち寄る場所が、来客玄関のある事務室です。第一印象はとても大事です。来客や電話応対の際に、いつも心掛けている事は「挨拶」、「相手の話を正しく聞き取る」、「相手に正しく伝えること」、「お互いに自然と笑顔で、快く会話できるようにと思っています。

最近よく思うことがあります。「神様はきくと見ていてくれるはず」。例えば、人が見えてなくても、目の前の落ちているゴミを素通りせずに拾ったとき。自分で自分をほめてあげる。「きつと良いことあるよね」そんな心豊かなステパノっ子になって下さい。



正しいことを行う子どもに

教諭 松村 はるか

去る三月、六年生の児童が言いました。「先生、ウクライナの話をして。」子どもたちの目は、世界に向いています。

オンラインで、世界中の人と瞬時につながれる時代になりました。国籍、民族、宗教、文化、何もかも異なる人々との交流は、私に多様性を教えてくれます。

世界情勢は混迷を極め、日本の社会は閉塞感を増す一方です。何が「正しい」か、を見極めることが、難しい時代であると感じます。

毎朝の礼拝で、私たちは「正しいことを行う子どもにしてください」と祈ります。多様化する社会の中で、「正義」の在り方も変わりつつあります。それでも、イエス様が私たちに教え続けてくださる「勇気」と「優しさ」は、決して変わることがありません。

そして、イエス様がくださった「勇気」をもって多様性を受け入れ、「優しさ」をもって人を思う心こそが、私たちを「正しいことを行う子ども」に導いてくれると思うのです。

五年生の皆さん、今年もまた、アフガニスタンの話をしましょう。保護者の皆様、また一年、よろしく願いいたします。

今年も、子どもたちと一緒に、多様な世界に目を向け、隣人を思う心もち続けることができますよう、私自身、努力してまいります。

気力との出会いを大切に

陶芸部顧問

宮本 光春

気力を手元の古い辞典で引くと「活動に耐えられる強い精神力」とあります。この語意そのままに感じられる書が我家に掲げてあります。ある企画で一緒に緒した王貞治氏から頂いた色紙に「気力」との力強い文字。並んでもさほど視線が変わらない体格で、生涯本塁打868本を放った大記録は強い精神力がもたらしたものに相違ありません。一方、スマホで検索すると「物事を成し遂げようとする精神力」とあり、強いは省かれています。確かに日常の行動の多くは気力が源でしょう。部活でも様々な気力に出会ってきました。中一で入部したA君は対面時の視線などから、他人との交流にストレスを感じてしまうタイプに思え、人見知りを自覚している自分とダブらせて接していました。二年間、一方通行の感じに変わりはありませんでした。その彼が三年生に進級して早々「大き目の皿を作りたい」との申告。意欲が窺えるその表情に、内に秘められた彼の気力と、それに気付けなかった自分に気付きました。二学期になり卒業記念の課題には急須！と。『えっ。急須？難しくて無理だよ！』との返答を飲み込み、サポートすることにしました。時が経ち、学園で大学生になった彼と偶然出会いました。「急須は宝物です。飾っています」と。本年度も目を見開いて気力と向き合っていきたいです。

子どもに備わりし力

教諭

和田 好江

ご入学・ご進級おめでとうございます。新しい年度の初めにあたり、日頃の教育活動からの思いを述べたいと思います。

やはり第一に、私は体育科ですので、元気に体を動かし、運動を好きになってもらいたいと願っています。始めは運動が苦手だと言っている子ども達が、イキイキと楽しそうに体を動かしている、変化していく姿を日々楽しみに授業をしています。今後も子どもに備わりし乗り越えようとする力、苦手意識の克服、挑戦する力を芽吹かせ、伸ばそうとする力を支えたいです。

また、友だちと学校生活を楽しめる子になって欲しいです。より良い友との交流の中で思いやりの気持ちを持てるようになって欲しいです。自分の思いと相手の気持ちをお互いに尊重し、話し合い、すり合わせて問題解決していけるような関係の構築に期待しています。併せて、自然や環境を大切に育む心を持って、周囲の生活環境や自然環境に目を向け、自ら良い行動ができるようになって欲しいです。

個性豊かな児童生徒達が、尊重し合い、平和を愛し、健全な集団を形成できるように、私は思考と努力を継続したいです。子どもにはその力が備わっていると信じて。

一年間どうぞよろしくお願ひします。

【離任者・着任者の紹介】

○離任者

中学校教諭

黒澤 優

中学校教諭

米原 佑樹

中学校教諭

西海 多恵子

小学校教諭

井手 隆太

小学校教諭

草山 広子

臨時教育学習支援員

飯田 幸子

臨時教育学習支援員

西村 聖司

看護師

上川 隆子

○着任者

中学校教諭

石川 瑠一

中学校教諭

露崎 志苑

小学校教諭

伊藤 有紀

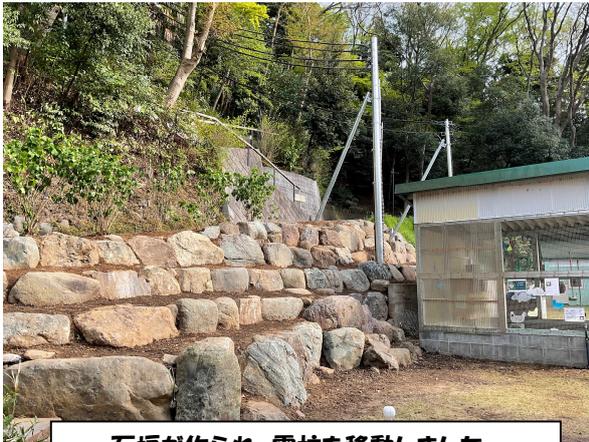
小学校教諭

櫻田 千亜紀

小学校教諭

西村 哲臣

STEPHEN'S NEWS



石垣が作られ、電柱も移動しました。



井口一世様からグラウンドの時計を寄贈頂きました。



管家工務店様から中学校校舎の外壁塗装と50年ものの紫陽花を寄贈頂きました。



新小学校2年生が植えたチューリップが綺麗に咲きました。



今年もグラウンドの桜が満開を迎えました。



聖ステパノ学園の保護者の会は、「ステパノ・エンジェルズ」、通称「SA（エスエー）」の名称で活動をしています。

コロナ禍での活動には制約もありますが、本年度の活動を支えて下さる新役員の皆さんをご紹介します。

【中学校代表】

ステパノ学園での毎日にとっても感謝しています。SAのお仕事を通して、微力ながら皆様のお役に立てるよう務めさせていただきます。一年間よろしく願います。家庭菜園やキャンプを楽しんでいます。（鎌倉市在住）

【小学校代表】

小学校代表2年目です。新たな一年を全力で駆け抜けたと思います。コロナ禍で始めた編み物が好きで、マイペースに続けています。ステパノの自然、礼拝、行事、教室、先生方。その調和に魅力を感じています。（平塚市在住）

【書記・会計】

困った時に親身に対応して下さいさる学校、先生に日々感謝しております。少しでも力になれればと思います。ゴールデンレトリバーを毎朝毎晩1時間散歩して、大磯町のパトロールをしています！（大磯町在住）

【書記・会計】

日々の感謝の気持ち、今回役員という形でやっと貢献出来る機会となりました。メデイカルアロマの勉強と役員のお仕事と家庭：今年バランス良く頑張りたいです。（鎌倉市在住）

【書記・会計】

小学校5年生の3学期より転入致しました。先生方はじめ多くの方々温かく迎え入れていただきありがとうございます。自宅で花仕事をしています。（大磯町在住）

* * *

SAの活動を行うフレンドシップ棟は、チャペル横の建物から、小学校校舎の向かい側の建物に移転しました。約二年前の移転以降、コロナ禍での活動自粛期と重なり、活用機会が少ない現状ですが、芝生の広場に面した桜色の室内の柔らかな雰囲気から、保護者同士の交流の時間が待ち遠しく感じられます。



本棟「SAの部屋」は、「SAの部屋委員会」が担当し、学園や地域にまつわる話題を中心に伝えます。中2 大山・小5 内村

STEPHEN'S NEWS

【2021年度表彰】

○聖ステパノ学園と大磯町観光協会の

コラボ企画

エコ袋何回使った大賞

大賞 小3 I・Y

特別賞 小6 M

最多回数賞 小1 E 小4 U

中1 K・R

○天文字宙検定

3級星空博士 小4 S

○実用英語技能検定

2級 合格 中2 S

【編集後記】

今年度の編集委員に新しい風がお二人入りました。そんなお二人の爽やかな息吹が感じられるよう、また新たな気持ちで楽しい企画を考え、皆様に分かりやすくお送りできればと思っております。

一年間どうぞよろしく願います。（ひ）

代表者 学園長 小川 正夫

発行者 聖ステパノ学園小学校・中学校

〒255-0003 神奈川県中郡大磯町大磯868

TEL 0463・61・1298

FAX 0463・61・9739

http://www.stephen-oiso.ed.jp

二〇二二年四月十二日（火）発行 第264号